JACET-Kansai Newsletter *No. 23*

April 21, 2004

Chapter President: 岡田　伸夫（Nobuo Okada, Professor, Osaka University)
JACET-Kansai Office: 〒615-8558 京都府京都市右京区西院笠目町６　京都外国語大学 相川真佐夫研究室内
(Masao Aikawa, Kyoto University of Foreign Studies, 6 Saiin Kasame-cho, Ukyo-ku, Kyoto city 615-8558)
Tel: 075-322-6079　Fax: 075-322-6245　E-mail: aikawa@nnc.or.jp　URL: http://www.ryukoku.seikyou.ne.jp/home/87858/
Postal Account： 00940−4−187715 大学英語教育学会関西支部 (Daigaku Eigo Kyoiku Gakkai Kansai Shibu)

教育改革進行中

支部長　岡田 伸夫

文科省は、中教審が昨年 10 月に出した「指導要領を超える内容を教えてもかまわない」という趣旨の答申を受け、昨年 12 月に学習指導要領の一部改訂を告示した。告示の内容に沿った教科書検定の結果、来年度から使われる小学校の教科書に「発展的な内容」が登場することになった。全員が学ぶ内容だけを載せていた今までの教科書と異なり、発展的な内容を含む教科書を使うと、学習の進んだ児童が次学年の内容を先取りすることが可能になる。見方を変えると、スローラーナーには、教科書に書かれていても、発展的な内容は教えないということになるのだろうか。義務教育の段階でわが子が発展的な内容を教わっていないということを知った保護者はどう思うだろうか。

現在、習熟度別授業や学校選択など、個に応じた教育の大きな流れができつつある。大阪市教委は今年度から、市立小・中学校の算数・数学、国語、英語の授業で、習熟度別にグループ分けする少人数教育を本格的に導入している。また、旧文部省が 1997 年に規制緩和の一環で公立校の通学区域制を弾力的に運用するよう通知したことを受け、保護者が児童・生徒の通う学校を自由に選べる「学校選択性」も拡大傾向を示している。1998 年 10 月の大学審議会の答申のタイトルは「21 世紀の大学像と今後の改革方策について」であるが、そのサブタイトルは「競争的環境の中で個性が輝く大学」であった。小・中・高・大のあらゆるレベルで、学校や教師が教育内容や指導力を競い合う時代がすでに到来しているように思われる。

発展的な内容を含む教科書では、教師の力量により、児童・生徒の学力にでこぼこができてしまうのではないかと懸念する向きもある。学力低下の背景に教師の授業力低下があると指摘する声も聞かれる現状では、この懸念はあながち根拠がないとは言えない。教師自身が発展的な内容を理解し、その適切な扱い方を身につけることが不可欠であるが、文科省や地方自治体は、戦略構想の行動計画に基づく英語教員集中研修のような教師の研修を、どの教科についても用意し、すべての教師がある程度長期にわたる研修を受けることを保障する体制を構築する必要がある。

4 月 5 日の朝日新聞朝刊に、朝日新聞とベネッセ未来教育センターが昨年 12 月に共同で実施した学校教育に対する保護者の意識調査の結果が報道されていた（調査の速報データは、ベネッセのホームページ http://www.benesse.co.jp/bckyouiku/に掲載されている）。「現在の教育改革で取り入れられたり、検討されたりしている次のような取り組みについて、賛成ですか反対ですか。」という質問の中に、「小学校での英語学習の導入」「習熟度（子どもの理解の程度）に応じた授業の実施」「学校選択制の導入」などの項目があげられているが、そのうち、一番多くの賛成（「どちらかといえば賛成」を含む、以下同様）を得たのは「小学校での英語学習の導入」で、86.7%だった。「習熟度に応じた授業の実施」は賛成 84.5%だった。「次のような取り組みが実施されたり、制度の変更が行われるとしたら、あなたは賛成ですか反対ですか。」という質問の中にあがっている項目のうち、一番多くの賛成を得たのは、「１クラスの子どもの人数をもっと少なくする」で、81.9%だった。これらの結果から、保護者の多くが、小学校への英語学習の導入、習熟度別授業、少人数教育を求めていることがわかる。

また、「A とBの 2 つの意見について、あなたの考えに近いのはどちらですか。」という質問の中に、「教育内容の決定」「学校間の競争」「教科書のレベル」などの項目があがっているが、教育内容の決定については、「国が定めたほうがいい」が 69.4%（「どちらかといえば」を含む、以下同様）なのに対して、「都道府県や市町村が決めたほうがいい」は 28.0%であった。学校間の競争については、競争によって「教育は良くなる」と考える保護者が 31.1%なのに対して、「教育は悪くなる」と考える保護者は 66.0%であった。教科書のレベルについては、「基礎的な内容に重点を置く」ことを望む保護者が 77.7%であるのに対して、「高いレベルの内容も盛り込む」ことを望む保護者は 20.2%であった。この結果は、保護者の多くが、急激な地方分権化、学校間の過度の競争、教科書のレベルの高度化といった改革は望んでいないことを示している。児童・生徒の間の学力はできるだけ平等なのがいい、学力差はつくらないほうがいいと考える保護者が多数派なのだろう。習熟度別授業は、学力差を前提にする授業であるにもかかわらず、これに対しては保護者の賛成が多い。これは、習熟度別授業により、学力の高い生徒だけではなく、低い生徒も学力をつけることができると期待しているからだろう。

さらに、この調査は、学歴の高い保護者が学校間競争を肯定的に、また、学歴の低い保護者が学校間競争を否

定的に受け止めることをはっきりと示している。「学校が競争すれば教育は良くなる」を支持した非大卒層（保護者 2 人とも大学・短大を卒業していない）は 24.9%しかなかったが、大卒層（保護者 2 人とも大学か短大を卒業）は 42.3%だった。「理解の早い子どもにはさらに高いレベルの学習をさせる」への支持は、非大卒層は 41.5%だったが、大卒層では 67.9%だった。学歴の高い保護者と低い保護者は、学校というものに対して異なるものを求めているのだろう。

以下、残りの紙面を借りて、2003 年度春季全国定例理事会における審議の結果の一部を報告する。第 3 次（2003 年度）JACET 将来構想委員会答申（案）が審議され、「2006 年度に関東甲越支部を立ち上げることが望ましい」、「役員 70 歳定年制を 2004 年度 4 月 1 日から施行する」、「会長の全会員による直接選挙の実施を目指す」、「特別運営委員会の一つとして授業学研究委員会を立ち上げる」、「印税の本部対支部の配分比率は現状通りの 5 対 5 とする」などの答申内容が承認された。

授業学研究委員会（特別委員会）」の設置について

春季理事会で「授業学研究委員会（特別委員会）」を設置することが決まりました。平成 10 年秋の大学審議会答申が FD に努める必要があると提言したのを受け、先生方が勤務しておられる大学も授業改善に努めておられると存じますが、本委員会の目的は、JACET 会員の総力を結集し、高等教育における英語授業を見直し、その改善を図るということです。関西支部会員の方で、この委員会に参加ご希望の方及び関心をおもちの方は、この委員会の詳細が決まり次第、関西支部のホームページに掲載しますので、そちらをご覧ください。（支部長）

「JACET 関西支部春季大会への皆様の御参加をお待ちしています。―プログラムの概要紹介」

“Call for participation for the JACET Kansai Spring Conference 2004―A brief introduction of the program”

林　宅男（関西支部研究企画委員会委員長）
Takuo Hayashi (Chief of the Research and Planning Committee, Kansai Chapter)

The JACET Kansai Spring Conference 2004 will be held on June 5th at the University of Marketing and Distribution Sciences (Ryutsu Kagaku Daigaku). There will be 7 oral presentations, of which four will be in English, two workshops on pedagogical English grammar and “language portfolio” (presented in English and Japanese), and a lecture by Dr. Ikegami (Prof. of Showa Women’s University graduate school, Emeritus Prof. of Tokyo University) on Englishlike and Japaneselike expressions from the perspectives of “construal” and “fashions of speaking” (for details please see the enclosed program). We hope that many people from a wide range of backgrounds will participate in the conference to discuss various issues related to the teaching and learning of English.

2004 年度 JACET 関西支部春季大会は、教育の改革―英語教育の行方」というテーマを掲げ、６月５日（土）に流通科学大学にて開催されます。前回の春季大会では多くの発表があったこともあり、お陰様で記録的な人数（140 人）の参加者に恵まれましたが、今回も多彩なプログラムを組み、多くの皆様の御参加をお待ちしております。本大会の概要を紹介しますと、午前中には 2 つの会場でのワークショップ、午後は 3 会場での研究発表・実践報告等とそれに続く講演を予定しています（詳しくは同封しておりますプログラムと概要集を御覧ください）。ワークショップは 2 室で並行して行い、一つは JACET 関西支部「学習英文法研究会」の企画で、語用論、意味論、語法の観点から英語コミュニケーションのための学習英文法の構築の可能性を探ります。二つ目は JACET 関西支部「海外の外国語教育研究会」の企画で、近年 Council of Europe's Modern Language Division によって提案されました “Language Portfolios”（外国語能力の評価を様々な点から文書化するもの）の概念を紹介し、日本における異なる教育レベルでの幾つかの Language Portfolios を提案し検討するものです。午後の部では、先ず 3 室に分かれ並行してそれぞれ 3 つの発表があります。その内容は、第一室では英語教育（ニーズ分析、個人指導、初等教育）に関するもの、第二室では、言語習得理論とテキスト分析（語彙及び語用）に関するもの、第三室では辞書における語彙表示研究（検証及び実際の使用の分析）の他、賛助会員２社による電子辞書の講習及び意見交換、となっております。

発表に続いての講演では、池上嘉彦先生（昭和女子大学大学院教授・東京大学名誉教授、日本認知言語学会会長、日本英語学会評議員、日本記号学会理事、英語教育協議会評議員）を講師に御迎えして、「'Construal' と 'Fashions of speaking' ―＜英語らしさ＞、＜日本語らしさ＞ということをめぐって」というテーマで御話戴きます。池上先生は、言語の意味や構造及び記号論的アプローチからの言語と文化の関係の研究のみでなく、最近は認知言語学の観点から人間の認知的営みの特徴や学校英文法の再編の可能性も論じられておられます。今回の講演では、「英語らしさ」、「日本語らしさ」について、認知言語学の基本的概念の一つである 'Construal' と言語的相対論で知られる Whorf の'fashions of speaking' という概念を使って論じていただきますが、これは特に日英語間の訳において顕在化する問題であり、その内容は英語教育関係者にとって大変重要で興味深いものであります。

最後に、今回の大会では、ワークショップを含めまして、英語による報告が 5 つ予定されており（これは全報告数の半分以上にあたります）、研究発表の一会場は全て英語によるものです。英語による発表につきましては、昨年の JACET-Kansai Newsletter No.21 で岡田支部長には挨拶の中で触れていただき、また私の方からも呼びかけをさせていただきましたが、これは平成 15 年３月に

文部科学省より発表されました『「英語が使える日本人」の育成のための行動計画』（"The Action Plan to Cultivate 'Japanese with English Abilities'" ）の具現に結びつくものであると共に、より幅広い方からの大会への参加に繋がるものと楽しみにしております。

春季大会懇親会へのお誘いと昼食のご案内

プログラムにもご案内のとおり、懇親会が開催されます。皆様、奮ってご参加ください。

尚、立派な駐車場を無料で開放していただけますので、マイカーでの参加者が多いことも見込まれます。したがいまして、昨年度春季大会同様アルコールフリーの懇親会にするとともに全参加者にとってより安価で参加しやすいものとさせていただきました。

懇親会費（税サービス料込み）

会員　事前申し込みの場合：　一般会員 2,000 円、
学生会員 1,700 円
当日申し込みの場合：　一律 2,500 円

非会員 事前申し込み,当日申し込みとも一律 2,500 円

会員の皆様にはぜひとも懇親会事前申し込みをご活用していただきたくお願い申し上げます。申し込み方法は、同封の振込用紙にて御所属と該当金額をご記入いただき、5 月 17 日(月)までに郵便局でお振込みください。

懇親会費を事前振込みでご注文ご送金いただきましたら、当日料金計 2,500 円のところ、送金手数料を含む総額は 2,000 円＋振込み料 70 円（同封振込み用紙での ATM 振込みの場合 60 円）で 2,070 円または 2,060 円となります。学生会員としてご登録の方は、さらに 300 円安くなり、1,770 円または 1,760 円となります。

昼食は、厚生棟内レストラン UMD にて召し上がっていただけますが、そのすぐ隣にローソン流科大実習店も営業中で、おにぎりやパン等幅広い品揃えでとても便利です。

Invitation to the party (alcohol free): 17:50―19:30 at Restaurant UMD (upstairs from the cafeteria)

Members: 2,500 yen (2,000 yen if paid before 17th of May into the post office account with the enclosed form)

Student members: 2,500 yen (1,700 yen if paid before 17th of May into the post office account with the enclosed form)

Non-members: 2,500 yen at the reception desk when registering

Lunch: University Cafeteria is open and Lawson convenience store UMDS branch in the campus is open.

（会計担当幹事 藤林富郎　Tomio Fujibayashi）

共催セミナーのお知らせ

‘The Language of Literature—How to Study and How to Teach It ’

標記セミナー（主催：関西外国語大学国際文化研究所）に JACET 関西支部が共催いたします。参加には予約が必要ですので、直接下記問い合わせ先にご連絡ください。

日時：2004 年 6 月 21 日（月）13.00-17.00
場所：関西外国語大学中宮キャンパス
本館２Ｆ　多目的ホール
招聘講師：John McRae (University of Nottingham, UK)
内容：基調講演、研究発表、パネルディスカッション。
使用言語：　英語。
参加費：　無料。予約要（6 月 15 日まで）。
問合せ：　TEL: 072-805-2801 (代),
e-mail: nozomi@kansaigaidai.ac.jp

As one of the co-sponsors of the above seminar offered by Kansai Gaidai Intercultural Research Institute, the JACET Kansai Chapter would like to inform you of the outline of the seminar. For details please refer to the contact address below.

DATE: Monday 21 June 2004　**TIME:** 13:00-17:00

PLACE: Kansai Gaidai University, Nakamiya Campus (Multi-purpose Hall, 2nd Floor of Main Administration Building)

INVITED SPEAKER: John McRae (University of Nottingham, UK)

CONTENTS: Key-note Lecture (‘The Language of Poetry—Words and Their Music’) Paper Presentation (‘The Language of Drama—What Happens in the Balcony Scene of *Romeo and Juliet*’), ‘The Language of Fiction—Repetition versus Variation’), Panel Discussion (‘The Language of Literature’)

LANGUAGE USED: English

CONTACT ADDRESS: TEL: 072-805-2801, e-mail: nozomi@kansaigaidai.ac.jp

PARTICIPATION: The event is free of charge, but please reserve a seat by June 15.

2004 年度第１回 JACET 関西支部談話会の予告

次のとおり談話会が開催されます。概要と講師プロフィールは 6 月中旬発行予定のニューズレターに掲載いたしますが、ご予定ください。

講師：　石川慎一郎氏（神戸大学）
演題：　コーパス研究の知見を英語教育に活かすには？
日時：　７月３日（土）16:00―17:30
場所：　京都外国語大学　国際交流会館（９号館）
４階会議室　（Room#941）
参加費：会員 500 円、非会員 1,000 円（学生 500 円）

2004 年度 JACET 関西支部秋季大会の応募について

2004 年度 JACET 関西支部秋季大会は、１０月１０日（日曜日）に京都外国語大学で開催されます。秋季大会のワークショップ・研究発表・実践報告を募集いたします。締め切りは、２００４年７月１５日（木）（必着）です。発表をご希望の会員の方は、次の要領で関西支部事務局までご応募ください。会員の皆様の積極的なご応募をお待ちしております。

2004 年度秋季大会発表（ワークショップ・研究発表・実践報告）応募要領（日本語版）

1. 発表は英語教育および関連分野に関する未発表のものに限ります。
2. 研究発表・実践報告は、発表が 20 分、質疑応答が 10 分、合計 30 分の形式になります。
3. 応募者は、次の書類 A), B)を、E-mail 添付書類、または「研究発表申込在中」と朱書きした封筒にて、事務局まで送付してください。尚、関西支部ホームページに応募用紙を掲載いたしておりますので、ダウンロードが可能な場合はできるだけご利用ください。

A) 応募情報

a) 発表形式: ワークショップ、研究発表、実践報告の別をご記入ください。

b) 発表題目（日本語と英語）、c) 発表者情報：氏名（漢字とローマ字）、所属（日本語と英語）、連絡先住所、TEL、FAX、E-mail、d) 発表に使用する言語（日本語または英語）、e) 使用希望機器をそれぞれ明記したもの。尚、共同発表の場合、c)は全員についてお書きください。

B) 発表要旨（目的、背景、仮説、方法、結論、文献を引用した場合は参考文献等）
日本語による発表の場合は 800 字（A4 用紙ワープロ打ち）程度、英語による発表の場合は 300-400 words（A4 用紙ワープロ打ち）、無記名とする。

4. 締め切り：２００４年７月１５日(木)（必着）
5. 選考は選考委員会にておこないます。
6. 選考結果は、締切り後 1 ヶ月程度で E-mail あるいは封書にて通知します。
7. 送付先：(E-mail) aikawa@nnc.or.jp または（郵送）〒615-8558 京都府京都市右京区西院笠目町６　京都外国語大学　相川真佐夫研究室内 大学英語教育学会関西支部事務局

   受取り確認のお知らせを一両日中に E-mail または葉書にて差し上げますので、万一、連絡がない場合はご一報くださいますようお願いいたします。
8. その他：ワークショップの詳細については、事務局までお問合せください。尚、ご応募および各種お問合せには、できるだけ E-mail をご利用ください。

Conference Presentation Proposals　(English Version)

The 2004 Autumn Conference of the JACET Kansai Chapter will be held at Kyoto University of Foreign Studies on October 10, 2004. Members of the JACET Kansai Chapter are invited to present proposals for research papers, reports on classroom activities and workshops. Conditions and procedure for proposals are as follows:

1) Proposed topics should be relevant to English education and related fields. The proposed material should not have been presented elsewhere.
2) A research paper or a report on classroom activities should consist of a 20-minute presentation and a 10-minute Q&A period. With regard to workshops, please contact the JACET Kansai office for details.
3) The following proposal forms A and B should be prepared on separate sheets and submitted to the JACET Kansai office either by E-mail (attached documents) or by post (with 'proposal form enclosed' indicated on the envelope in red). These forms for proposals are available from the Web page (http://www.ryukoku.seikyou.ne.jp/home/ 87858/).

A) Application form: a) Type of proposal (research paper, report on classroom activities or workshop); b) Title of proposal; c) Information about applicant: name, affiliation, postal address, phone number, facsimile number, e-mail address; d) Language for presentation (English or Japanese); e) Equipment required.

With regard to c), if this is a group proposal, please indicate all members.

B) Abstract: anonymous; 300-400 words. (Some mention should be made of the purpose of the research; background; methods; conclusion; references.)

4) Proposals must arrive at the JACET Kansai office by no later than July 15, 2004.
5) Selection of the proposals will be carried out by the Reviewing Committee.
6) Notification of acceptance will be sent from the office within a month after the deadline.
7) Contact address: (E-mail) aikawa@nnc.or.jp
(Postal Address) JACET-Kansai Office: Masao Aikawa, Kyoto University of Foreign Studies, 6 Saiin Kasame-cho, Ukyo-ku, Kyoto city 615-8558
8) Acknowledgment of the receipt of your proposal will be sent by e-mail or post within two days after its receipt. If you do not receive an acknowledgment, please inform the office as soon as possible. E-mail submission of proposals is preferred.

関西支部事務局の交代

関西支部の事務局を、４月１日付けで相川真佐夫先生（京都外国語大学）に交代いたしました。2 年間事務局として、お世話になり有難うございました。勉強させていただいたことも多く、皆様のご指導、ご協力に心より感謝申し上げます。

尚、全国大会や夏・秋の本・支部行事の準備がすでに新事務局で始まっていますが、春季大会関係は、大会終了まで梅咲が担当させていただくため、『英語青年』他の大会案内連絡先には、旧事務局が表示されています。また、プログラム作成には、評議員の野口ジュディー先生にお世話になり、ここにお礼申し上げますとともに、今回の発行物に不備等がございましたら、責任はすべて旧事務局にあります。

（旧事務局　梅咲敦子）